1502⑩

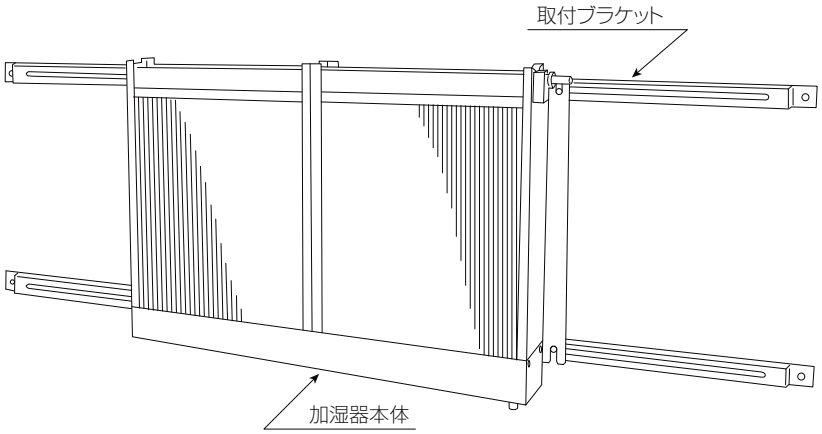
Wetmaster

施工要領書
取扱説明書

パッケージエアコン組込用

滴下浸透気化式加湿器

WM-VPAタイプ



このたびはウエットマスター滴下浸透気化式加湿器をご採用いただき、まことにありがとうございます。

施工者の方へ

●加湿器の機能を十分に発揮させ、安全にご使用いただくためには、適切な取付工事が必要です。施工にあたっては必ず本書をお読みいただき、本書の内容に従って施工してください。

●本書を含めて製品添付の説明書類は、必ずお客様にお渡しして、保管いただくように依頼してください。

加湿器をご使用になるお客様へ

●ご使用の前には、必ず本書をよくお読みください。また本書は、製品添付の他の説明書類とともにお客様にて必ず保管してください。

ウエットマスター株式会社

目　次

■安全上のご注意 ・・・

安全上のご注意

●取付および取扱は、本書をよくお読みのうえ、本書の内容に従って確実に行ってください。

●ここに示した注意事項は**「⚠警告」**・**「⚠注意」**に区分していますが、誤った取付や取扱をした時に、死亡や重傷等の重大な結果に結びつく可能性が大きいものを、特に**「⚠警告」**の欄にまとめて記載しています。
また**「⚠注意」**の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

●取付工事完了後は、試運転を行って異常がないことを確認してください。また、本書を含めて製品添付の説明書類は、必ずお客様にお渡しして、保管いただくように依頼してください。

⚠ 警 告

●本製品は、専門業者の管理のもとにご使用ください。

●取付は、専門業者に依頼してください。取付工事に不備があると、水もれや感電、火災等の事故の原因になります。

●取付工事は製品添付の説明書類に従って確実に行ってください。取付工事に不備があると、水もれや感電、火災等の事故の原因になります。

●取付は、重さに十分耐える所に確実に行ってください。強度不足や取付工事に不備があると、落下や転倒等による事故の原因になります。

●高さが２メートル以上の箇所で作業を行うときは、適正な足場を確保し安全帯を使用する等、墜落による作業者の危険を防止するための措置を講じてください。

●電気工事は、電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」「内線規定」および製品添付の説明書類に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。電気回路の容量不足や施工不備があると、感電、火災の原因になります。

●電気配線は所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように確実に固定してください。接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災の原因になります。

●工事の部材は付属品および指定の部材をご使用ください。寸法や材質等の適合しない部材を使用すると、水もれや感電、火災等の事故の原因になります。

●水道法、消防法等に規制される部材の取扱については、専門業者に依頼してください。

●改造は絶対にしないでください。部品交換を含め、修理は当社または専門業者にご相談ください。修理に不備があると、水もれや感電、火災等の事故の原因になります。

●保守点検作業は、当社または専門業者にご相談いただくか、設備機器に関する知識および作業経験のある方が行ってください。保守点検作業に不備があると、水もれや感電、火災等の原因になります。

●保守点検作業を行うときは、必ず運転を停止して元電源を切ってください。

⚠ 注 意

●本製品は、病院空調等、特に清浄度を必要とする空調設備には使用できないことがあります。このような場合は当社までご相談ください。

●給水の水質は、水道法に規定する水質基準に準ずるものをご使用ください。水質が不適当な場合は、室内の空気の汚れの原因になることがあります。

●配管工事は、製品添付の説明書類に従って確実に行い、結露が生じないよう保温してください。配管工事に不備があると、水もれによる事故の原因になります。

●アース接続（D 種接地工事）を行ってください。アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アースが不完全な場合は、感電の原因になることがあります。

●漏電ブレーカ（電源元スイッチ）を取り付けてください。漏電ブレーカが取り付けられていないと、感電の原因になることがあります。

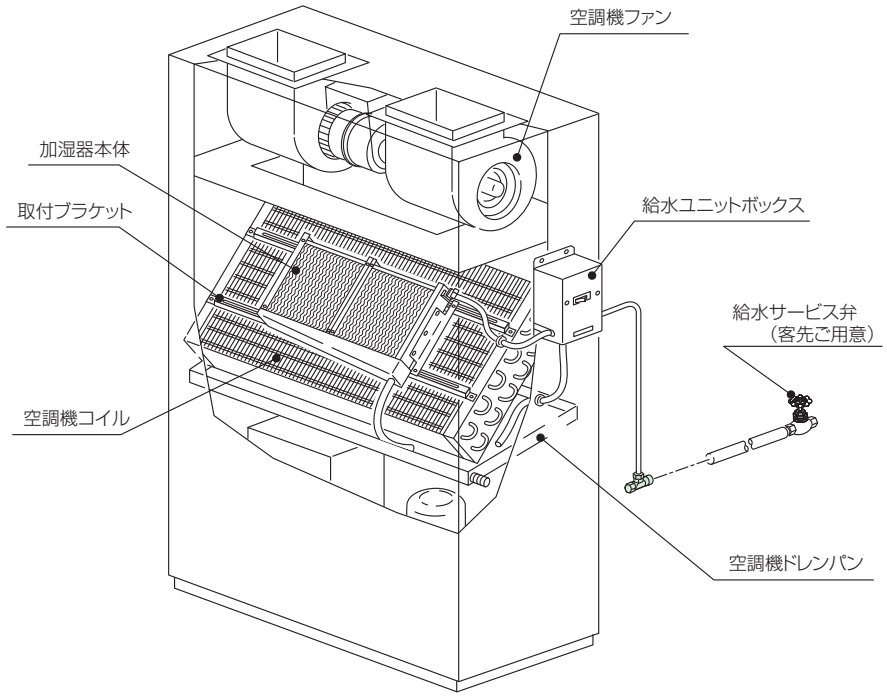
●正しい容量のヒューズ以外は使用しないでください。不適当な容量のヒューズや針金・銅線等を使用すると、故障や火災の原因になることがあります。

1. 一　般

1-1. 概 要

VPAタイプは、加湿器本体を空調機（パッケージエアコン室内機）熱交換器2次側に取り付け、本体内に組み込まれた給水ヘッダより滴下給水して、加湿材表面で流通空気との顕熱～潜熱の熱交換を行うことにより水分を気化蒸発させて加湿する方式の加湿器です。
加湿モジュールに給水ヘッダ・ドレンパンを取り付けた本体と、減圧弁・電磁弁などを組み合わせた給水ユニットボックスにより構成されています。薄型・低圧損の本体は空調機内の狭いスペースにも組み込むことができ、またコイルの傾斜角度に合わせて最大 60˚までの傾斜取付を可能としており、組込上の制約を大幅に解消しています。本体下部のドレンパンにはあらかじめ排水勾配をもたせ、またスライド式取付ブラケットの採用により施工も容易です。

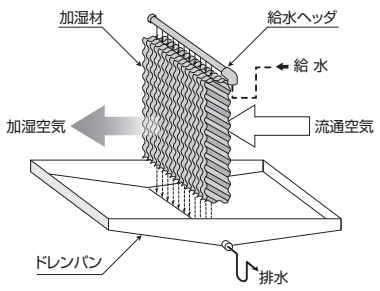
図 -1 パッケージエアコンへの組込例



1-2. 加湿原理について

●給水は本体内上部の給水ヘッダを通って加湿材に均一に滴下され、下方に向かって浸透します。気流が加湿材を通過する際に加湿材表面から水分のみが気化蒸発して加湿が行われ、余剰水は加湿材の汚れなどを含みながらドレンとして排水されます。（自己洗浄効果）

■加湿原理のモデル図



1-3. 使用場所の制限について

●滴下浸透気化式加湿器は、**右記のような現場**では使用できないことがありますので、事前に当社宛お問い合わせください。

●**電気ヒータ等の補助ヒータ**を取り付ける場合は、組込スペースおよび輻射熱の影響により使用できない場合がありますので事前に当社宛お問い合わせください。

＊通気、設置場所に腐食性ガスが予想される場合
＊厨房、食品工場その他、通気に塩分やオイルミストを含むおそれのある場合
＊機械工場など、通気に金属製の塵埃を含むおそれのある場合
＊病院などの特殊空調
＊供給水が水道水の水質基準を満足しない場合

2. 仕 様

機種・型式		滴下浸透気化式加湿器　ウエットマスター VPA						
型番		WM-VPA30	WM-VPA45	WM-VPA60	WM-VPA75	WM-VPA90	WM-VPA120	WM-VPA150
標準加湿能力		3.0kg/h	4.5kg/h	6.0kg/h	7.5kg/h	9.0kg/h	12.0kg/h	15.0kg/h
能力条件	加湿器入口空気温湿度	40℃・15%RH						
	取付面風速	2.5m/s						
圧力損失		10Pa 以下（取付面風速 2.5m/s 以下の場合）						
定格電源		単相　AC200V　50/60Hz						
定格消費電力		10W						
運転時質量	加湿器本体	2.0kg	2.5kg	3.5kg	5.0kg	4.5kg	5.5kg	7.0kg
	給水ユニットボックス	1.5kg						
	取付ブラケット	WM-BL600:1.0kg / WM-BL1000:1.5kg						
取付ブラケット適合型番	WM-BL600 (600 ～1000mm)	○	○	○				
	WM-BL1000 (1000～1800mm)	○	○	○	○	○	○	○
電気特性	電圧許容範囲	±10% 以内						
	絶縁抵抗	100MΩ以上						
	絶縁耐圧	AC1500V　1 分間印加異常なし						
使用条件	周囲温湿度	加湿器本体 : 5 ～ 60℃　90%RH 以下 給水ユニットボックス : 5 ～ 50℃　90%RH 以下						
	最大取付面風速	4.0m/s						
	給水水質	水道法水質基準に準ずる飲料水						
	給水圧力、温度	0.05 ～ 0.5MPa、5 ～ 40℃						

その他

1) 加湿器本体は、取付ブラケット側に最大 60˚まで傾斜して取り付けることができます。（外形図参照）

2) 標準付属品として、コイル寸法に合わせて取付容易なスライド式取付ブラケット(WM-BL600:600 ～1000mm、WM-BL1000:1000 ～ 1800mm)を用意しております。ご注文時に取付ブラケットの型番をご指定ください。

3) 給水ユニットボックスのドレンホースは安全のために設けてあるもので、通常の使用状態での排水はありません。

4) 加湿器の電源系統には、加湿器専用の漏電ブレーカを設けてください。

5) 各加湿器ごとに給水サービス弁およびフラッシング用バルブを設けてください。

6) 加湿器への給水は、公共の水道管から直接接続することはできません。このような場合はシスターン（型式認可品）をご使用ください。

7) 衛生的な空調を行うためには、運転を休止している空調機器内に含水状態の加湿モジュールが長時間放置されることは望ましくありません。定期的に加湿モジュールが乾燥しない場合、臭気の発生に至る場合があります。

＊空調機器の運転を一昼夜以上にわたって休止する場合には、加湿器の運転を停止して 1 時間程度の空調機アフターラン (送風運転) を行い、加湿モジュールを乾燥させてください。

＊加湿シーズン終了後は加湿モジュールを加湿器本体から取り外すことをおすすめいたします。加湿モジュールを取り外すことにより、空調機ファンの負荷軽減、加湿モジュールの汚れ防止になります。

8) 加湿モジュールは、使用によって汚れが堆積するため、定期的な洗浄が必要です。汚れの量は、水質や運転環境の様々な要因によって変化しますが、水道法水質基準に準じている場合でも、全硬度、シリカ成分量などが多ければ、それだけ汚れ（スケール成分の析出）量も多くなる可能性があります〔供給水質の目安＝全硬度:70(mg$CaCO_3$/ℓ) 以下、イオン状シリカ濃度：30 (mgSiO_2/ℓ) 以下〕。
加湿モジュールは定期的に監視し、汚れの質や量に応じた洗浄方法、洗浄サイクルを定めてください。また、軟水器を使用すると軟質のスケールが析出し、飛散することがありますので、軟水を供給しないでください。

9) 加湿モジュールの交換周期は、加湿器の設置環境や運転状況、洗浄作業の頻度などにより左右されますが、一般空調（暖房期の加湿運転、年間運転時間：1,000 時間）においては 5 ～ 10 年をめやすとします。また、年間空調（年間運転時間：5,000 時間）においては 1 ～ 2 年をめやすとします。

10) 空気清浄度を管理されている室内、施設を対象に加湿器をご使用になる場合は、加湿器を組み込んだ空調系統の加湿器二次側に要求清浄度を満足できる能力を有する最終フィルタを設置してください。室内直接加湿の場合は、当社宛お問い合わせください。

3. 施 工

3-1. 梱包内容（付属品）

●標準品の梱包内容（付属品）は下記のとおりです。開封後は直ちに内容を確認してください。

【加湿器本体梱包】

①加湿器本体 …… 1 台
②給水ホース（φ6 ×φ11 × 2m、ホースバンド 2 ヶ付） …… 1 本
③排水ホース（φ11 ×φ16 × 2m） …… 1 本
④施工要領書 / 取扱説明書 …… 一冊

【給水ユニットボックス（WM-KUB2）梱包】

①給水ユニットボックス（取付ビス付） …… 1 台
②給水軟銅管（φ6.35 × 0.4m、断熱材付） …… 1 本
③給水ストレーナ（T 型、#100、R1/2） …… 1 ヶ
④ドレンホース（φ8 ×φ12 × 1m、ホースバンド 1 ヶ付） …… 1 本
⑤ゴムグロメット（給水ホース、ドレンホース用） …… 各 1 ヶ

【取付ブラケット梱包】

①取付ブラケット（取付ビス付） …… 1 台

3-2. 加湿器本体の取付

⚠ 警 告	●取り扱いに際しては、保護手袋を着用するなど、安全に十分ご配慮ください。

（1）取付ブラケットおよび加湿器本体の取り付け

●取付を行う際には、空調機のコイルフィンやチューブなどの損傷にご注意ください。

●加湿モジュールは変形・損傷した場合には**修復できません**。取り扱いに際しては、手や工具等による損傷に十分ご注意ください。

●加湿器本体および給水ユニットボックスの取付位置には、保守点検作業が容易に行えるだけの**サービススペース**を確保し、本体と給水ユニットボックスを空調機の外に取り出せるようご配慮ください。

●加湿器運転中は常時ドレンが出ます。本体にドレンパンを装備していますが、本体はなるべく**空調機ドレンパン上に取り付けてください**。特に傾斜させて取り付ける場合はご注意ください。また、加湿器本体ドレンパンには排水のため傾斜をもたせています。確実に排水が行えるよう**ドレンパンの傾斜に注意**して取り付けてください。

●本体および給水ホース、排水ホースが**コイルに触れないよう**にご注意ください。

●排水ホースは流れの障害となるような**折れ曲がり、たわみなどが発生しないよう**に注意し、必ず先下がり勾配としてください。

●本体取付用ブラケットはコイル寸法にあわせて調節ができます。寸法調節、本体取付の際、それぞれのビスをゆるめすぎますとブラケット裏側の**固定板が外れます**のでご注意ください（図 -2）。

●加湿器本体は、本体取付フランジ（図 -2 または P.16「本体外形図」参照）側へのみ最大 60° まで傾斜させて取り付けることができます。

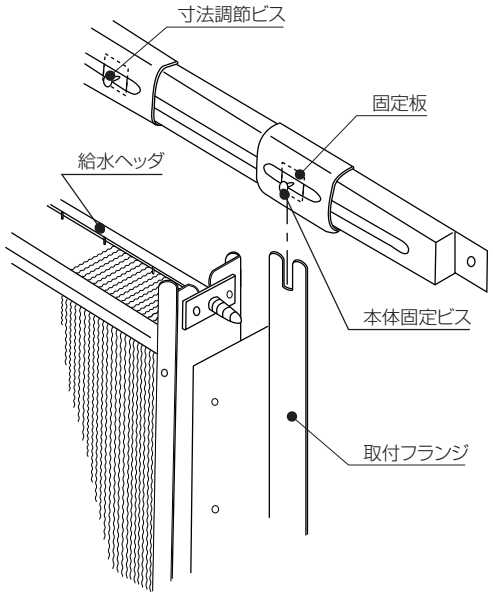
●給水勝手は給水ヘッダ（図 -2 または P.12 図 -9 参照）を逆向きに付け変えることにより逆勝手での使用が可能です。

●寸法調節ビスをゆるめた状態の取付ブラケットを付属の取付ビスを使用して空調機コイルなどに取り付けます。

●寸法調節ビスを締めて取付ブラケットのスライド位置を固定します。

●取付ブラケットの本体固定ビスをゆるめて取付フランジの U カット部分をはめ込み、本体固定ビスで仮止めします（図 -2）。4 ヶ所とも仮止めして本体の位置を決めた後、本締めしてください。

図 -2 加湿器本体取付部の詳細



（2）給水ユニットボックスの取り付け

●給水ユニットボックスは天地に注意し、付属の取付ビスを使用して空調機側板など**保守点検作業が容易に行える位置**に垂直に取り付けてください。

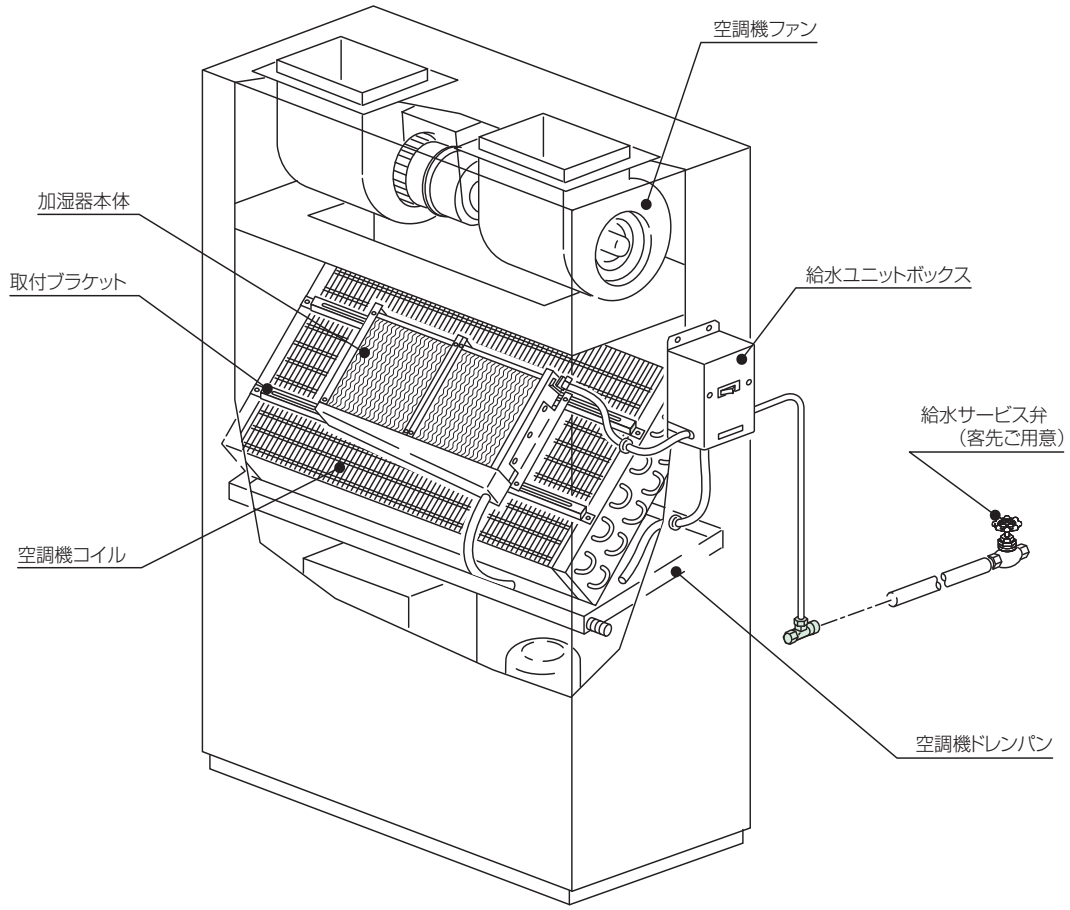
●給水ユニットボックスのドレンホースを空調機ドレンパンに配管する場合、給水ユニットボックスの取付位置が必ず空調機ドレンパンよりも上になるように取り付けてください。

●給水ユニットボックス周囲にはカバーを取り外しできるスペースを確保してください。

●加湿器本体（給水ヘッダ）と給水ユニットボックスとの間の接続は、付属の給水ホースを使用してください。ホースは**ホースバンドで固定（締付トルク：1.5N・m）**し、**コイルに接触しないように**注意してください。

●給水ホース（φ11）などを空調機の側板に貫通させる際に、貫通部にグロメットなどを取り付けて**ホースの損傷防止処理**をしてください。またエアリークしないように、必要に応じてコーキング処理を施してください。

図 -3 取付参考図



3-3. 給排水配管

⚠ 注 意	●給水の水質は、水道法水質基準に準ずる飲料水をご使用ください。 水質が不適当な場合は、室内の空気の汚れの原因になることがあります ●配管は必ず保温してください。保温しないと結露による漏水の原因になります。

(1) 給水配管

●給水の水質は、**水道法水質基準に準ずる飲料水**をご使用ください。また、軟水器を使用すると、軟質のスケールが析出し、飛散することがありますので、**軟水を供給しないでください**。

●加湿器への給水は公共の水道管から直接接続することはできません。このような場合はシスターン（型式認可品）をご使用ください。水道直結給水につきましては、お問い合わせください。

●**給水サービス弁**は、給水ユニットボックスになるべく近い位置に、必ず加湿器 1 台に 1 ケご用意ください。

●配管に結露が生じないよう、**必ず保温**してください。

●付属の給水ストレーナは必ず使用し、後々の保守点検が容易に行える位置に取り付け、保温材が取り外しできるようにご配慮ください。

●給水配管と加湿器本体を接続する前には通水して必ず**フラッシング（配管のブロー）**を行い、配管内の汚れや異物が加湿器に流入しないようにしてください。

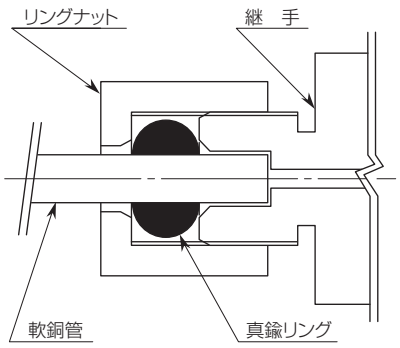
●配管の管末にはフラッシング用バルブやプラグを取り付けるなどして、施工後にも**フラッシングが行えるよう配管**してください。

●付属の給水ストレーナは必ず使用し、保守点検作業が容易に行える位置に取り付けてください。

●給水軟銅管の接続はリングジョイント式です。図 - 4を参照して、水もれのないように接続してください。

●給水ユニットボックスと本体の間は付属の給水ホースを使用してください。ホースはホースバンドで固定し、空調機コイルに接触しないようご注意ください。

図 -4 給水軟銅管の接続



⚠ 注 意	●軟銅管は継手部付近からの急な曲げ加工は行わないでください。漏水の原因になることがあります。

※軟銅管は、継手の奥までまっすぐにしっかりと差し込んでください。

※**リングナットの締付トルクは 10N･m 程度**としてください。

(2) 排水配管

●加湿器からの排水ホースは、排水が確実に行われるように**ホースの先端を空調機のドレンパン上に固定**してください。

●部分的に無理な応力がかかるような取り付けはしないでください。折れや曲がりの原因となります。ホース最小曲げ半径の目安として、外径φ16 の場合 R70mm としてください。

●加湿器の**ドレンが空調機のドレンパンに滞留しないように**、確実に排水してください。

●給水ユニットボックスのドレンホースは空調機ドレンパン等へ配管してください。

●給水ホースおよび給水ユニットのドレンホースを空調機側板に貫通させる場合には下穴φ18 とし、必ず付属品のゴムグロメットをご使用ください。またエアリークしないよう必要に応じてコーキング処理等を行ってください。

●空調機からの**排水配管は必ず 1/100 以上の先下がり勾配**とし、必要に応じて機内静圧分のトラップを設けてください。

3-4. 電気配線

⚠ 警 告	●電気工事は、電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」「内線規定」に従って施工してください。電気回路の容量不足や施工不備があると、感電、火災の原因になります。 ●各配線の接続は確実に行い、接続部にケーブルの外力が加わらないように確実に固定してください。施工不備があると、感電、火災の原因になります。

●現場の指示などをよくご確認のうえ、確実な電気工事をお願いします。

●電気配線は客先ご用意となります。加湿器電源として専用回路を使用してください。配線にあたっては図 -5 を参照して、空調機ファンの電源が ON の時にのみ加湿器への電源が入るようにインタロックをとってください。

●元電源には必ず**加湿器 1 台に 1 ケ漏電ブレーカ**（電源元スイッチ）を設けてください。漏電事故防止および保守点検作業時の安全のため必要です。

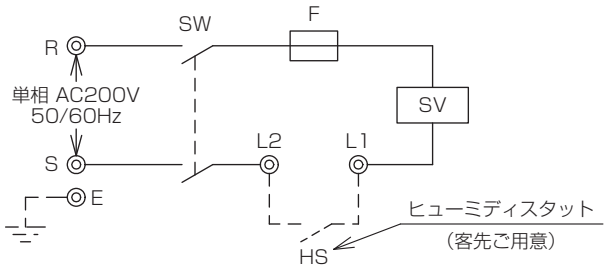
●必ずアース接続（D 種接地工事）を行ってください。アースが不完全な場合は、感電の原因になることがあります。

●ヒューミディスタットはお客様ご用意となります。湿度低下で接点がＯＮとなる形式のもので、加湿器 1 台あたり接点容量 200V・2A 以上としてください。

●ヒューミディスタットは室内空気の湿度を的確に検知できる、通風のよい位置に取り付けてください。

図 -5 電気回路図 / 接続要領図

電気回路図

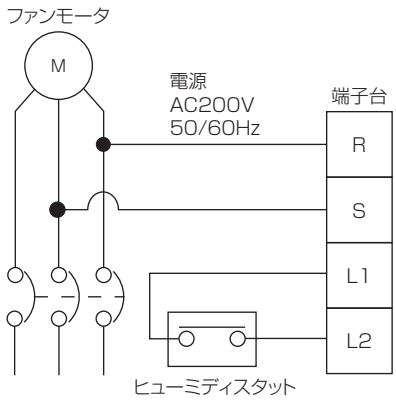


※1 空調機ファンが運転中のみ電源が入るようにしてください。

※2 ヒューミディスタットをご使用の際は端子台L1、L2の短絡線を外してヒューミディスタットを接続してください。

※3 接地はD種接地工事を行ってください。

接続要領図



3-5. 試運転

施工後は、以下の手順で試運転を実施し、不都合な点があれば必ず修正してください

(1) 試運転前の確認項目

●試運転の前に、P.4 ～ 7 の各項目を参照して下記の項目を必ず確認し、不都合な点があれば必ず修正してください。

□ 給水配管（フラッシング、保温処理、リングジョイント、ホースバンド、各接続部の締め付け）
□ 排水配管（排水勾配、保温処理、トラップ、各接続部の締め付け）
□ 各電気配線が正しく接続・固定されていること

(2) 試運転手順

●以下の手順で試運転を開始してください。

① 給水サービス弁を開ける
② ヒューミディスタットがある場合はこの設定を最大にする
③ 加湿器の漏電ブレーカ（電源元スイッチ）を ON にして電源を供給する
④ 給水ユニットボックスのスイッチを ON にする
⑤ インタロックをとった空調機を運転する

(3) チェック項目

●下記の項目をチェックし、不都合な点があれば必ず修正してください。また、何らかの異常動作などが発生し、原因が不明の場合は当社宛お問い合せください。

□ 給水が確実に行われること（運転開始とともに加湿モジュールの上部から濡れ始めます）
□ 配管各接続部からの水もれがないこと
□ 給水軟銅管、給水ホースの接続部からの水もれがないこと
□ ヒューミディスタットがある場合はこれと連動すること
□ 空調機ファンインタロックが確実に行われること

(4) 試運転終了

●試運転後は下記の手順で運転を停止してください。

① 給水ユニットボックスのスイッチを OFF にする
② 加湿器の漏電ブレーカ（電源元スイッチ）を OFF にする
③ ヒューミディスタットがある場合はこの設定を希望湿度にセットする
④ 給水サービス弁を閉める
⑤ **給水ストレーナの掃除**を行う（P.11「№ 2」参照）
⑥ 1 時間程度の**空調機アフターラン（送風運転）**を行い、加湿モジュールを完全に乾燥させた後、空調機を停止する

4. 運転管理

⚠ 警 告	●本製品は、専門業者の管理のもとにご使用ください。誤った取扱をした場合には、水もれや感電等の事故の原因になります。

4-1. 施工後はじめての運転または暖房シーズンインの運転開始

●施工後にはじめて運転を開始する場合には、下記の手順で運転準備を行ってください。

① 給水配管のフラッシングを行う（P.11「№ 1」参照）
② 給水サービス弁を開ける
③ インタロックをとった空調機を運転する
④ ヒューミディスタット（湿度調節器）がある場合はこの設定を希望湿度にセットする
⑤ 加湿器の漏電ブレーカ（電源元スイッチ）を ON にして電源を供給する
⑥ 給水ユニットボックスのスイッチを ON にする

4-2. 日常の運転管理

⚠ 注 意	●衛生的な空調を行うためには、運転を休止している空調機器内に含水状態の加湿モジュールが長時間放置されることは望ましくありません。 ●上記より、空調機器の運転を一昼夜以上にわたって休止する場合には、加湿器の運転を停止して 1 時間程度の空調機アフターラン（送風運転）を行い、加湿モジュールを乾燥させてください。

●加湿器は、空調機の発停およびヒューミディスタット（湿度調節器）がある場合はこれよりの加湿信号に伴って自動発停しますので、夜間などに運転を停止する場合には特に加湿器のスイッチ等を操作する必要はありません。

●一昼夜以上にわたって運転を停止する場合には、衛生面の配慮から加湿器の運転を停止して 1 時間程度の**空調機アフターラン（送風運転）**を行い、加湿モジュールを乾燥させてください。

● 24 時間連続運転となるような場合、衛生的な空調を行うために一日に一回、加湿器の運転を停止して、**空調機アフターラン（送風運転）**を行ってください。空調機アフターラン（送風運転）により定期的に加湿モジュールを乾燥させることで、**臭気などの発生を予防**します。また、加湿器の運転を停止する 1 時間程度前に給水を停止することで、加湿モジュールを乾燥させるスケジュール運転を実施することもご検討ください。給水を停止しても加湿モジュールに保水した水が気化蒸発することで、極端な加湿不足などの不都合は回避可能となります。

●運転中は定期的に巡回点検し、配管各部からの水もれのないこと、その他異常のないことを確認してください。なお、異常のみられる場合は、加湿器の運転を直ちに停止し、P.14 ～ 15「6. 故障の原因と処置」を参照して対処してください。

●空調機のドレンをポンプにより排水している場合、点検その他の事情によりポンプの電源が OFF になるときには、必ず事前に加湿器の運転を停止して給水サービス弁を閉めてください。

4-3. 長期休止の場合

（1）長期休止にあたって

●加湿のシーズンオフなど加湿器の運転を長期休止する場合は、下記の作業を行ってください。

① 給水ユニットボックスのスイッチを OFF にする
② 加湿器の漏電ブレーカ（電源元スイッチ）を OFF にする
③ 給水サービス弁を閉める
④ 給水ヘッダの水抜きを行う（P.13「№ 4」参照）
⑤ 1 時間程度の空調機アフターラン（送風運転）を行い、加湿モジュールを乾燥させる

（2）長期休止後の運転再開にあたって

●シーズンインなど運転再開時には、所定の保守点検作業が必要になります。P.10 ～ 13「5. 一般保守要領」を参照して、確実に作業を行ってください。

5. 一般保守要領

⚠ 警 告	◆保守点検作業、部品交換を含む修理は、当社または専門業者にご相談いただくか、設備機器に関する知識および作業経験のある方が行ってください。作業に不備があると、水もれや感電、火災等の事故の原因になります。 ◆保守点検作業を行う前には、本書の内容に従って運転を停止し、必ず元電源を切ってください。通電したまま作業すると、感電等の事故の原因になります。

5-1. 作業の前に

●加湿器の機能を維持し正常に運転させるためには、定期的な保守点検作業が必要となります。本書はその中でも、日頃のお手入れとして必要な基本的内容を記載しておりますので、内容をよくお読みのうえ確実に作業を行ってください。

●パッキン類など交換が必要な場合は、当社にて部品販売も行っておりますのでお問い合わせください。

●当社では、機器の維持管理に便利な**定期点検契約**を設けております。加湿器の定期点検から部品交換まで、専従スタッフによる万全のアフターサービスをご提供します。ぜひご利用ください。

5-2. 保守点検項目

●下表の作業項目のNo. 1 ～ 4 は、次項「5-3. 作業要領」のNo. 1 ～ 4 と合致しています。

No.	作業時期	作業内容	ページ
1	設置後はじめての運転開始の前およびシーズンイン時	給水配管のフラッシング	P.11
2	設置後の運転初期（運転開始後 1 ～ 2 日目）および シーズンイン時（汚れの状況により周期を早める）	給水ストレーナの掃除	P.11
3	シーズンイン時（汚れの状況により周期を早める）	加湿モジュール洗浄 給水ヘッダのノズル掃除 ドレンパンの掃除	P.12 ～ 13
4	シーズンオフ時	給水ヘッダの水抜き	P.13

●加湿モジュールの洗浄について

加湿モジュールは、使用によって汚れが堆積するため、定期的な洗浄が必要です。汚れの量は、水質や運転環境の様々な要因によって変化しますが、水道法水質基準に準じている場合でも、全硬度、シリカ成分量などが多ければ、それだけ汚れ（スケール成分の析出）量も多くなる可能性があります〔供給水質の目安＝全硬度：70（$mgCaCO_3/\ell$）以下、イオン状シリカ濃度：30（$mgSiO_2/\ell$）以下〕。

加湿モジュールは定期的に監視し、汚れの質や量に応じた洗浄方法、洗浄サイクルを定めてください。

●加湿モジュールの交換周期について

加湿モジュールの交換周期は、加湿器の設置環境や運転状況、洗浄作業の頻度などにより左右されますが、一般空調（暖房期の加湿運転、年間運転時間：1,000 時間）においては 5 ～ 10 年を目安とします。

また、年間空調（年間運転時間：5,000 時間）においては 1 ～ 2 年を目安とします。

●シーズンオフ時の加湿モジュールの取り外しについて

加湿シーズン終了後は、加湿モジュールを加湿器本体から取り外すことをおすすめいたします。加湿モジュールを取り外すことにより、空調機ファンの負荷軽減、加湿モジュールの汚れ防止になります。取り外し作業にあたっては、P.12「No. 3」1）～ 3）を参照し、作業後は必ず給水サービス弁を閉めてください。

お願い 「建築物における衛生的環境の確保に関する法律施行規則」（略称：建築物衛生法、2003 年 4 月施行）では、加湿装置は使用開始時および使用期間中の 1 ヵ月以内ごとに 1 回の定期点検（必要に応じて清掃）、排水受け（ドレン受け等）を備えるものは同じく 1 ヵ月以内ごとに 1 回の定期点検（必要に応じて清掃）、1 年に 1 回の定期的な清掃を求めています。準拠した対応をお願いします。

5-3. 作業要領

No. 1	作業時期：設置後はじめての運転開始の前およびシーズンイン時 1 週間以上の運転休止後の運転再開前
	作業内容：給水配管のフラッシング

⚠ 注意	●給水軟銅管のジョイント部を外す方法は行わないでください。脱着を繰り返すと、ジョイント部の変形による漏水の原因になることがあります。 ●バルブ類を開ける際は、漏水しないことを確認しながら作業してください。また作業後にも、漏水のチェックは確実に行ってください。

1）現場配管の状況に応じた方法で、給水配管のフラッシングを実施します。給水がきれいになるまで十分に放水してください（図 -6、図 -7）。 作業終了後は通水し、配管から水漏れしないことを確認します。

●保温材を外すときは、復旧時の養生を考慮して行ってください。
●内部の残水が出ることがありますのでご注意ください。
●給水圧力が高い場合やエアが入っている場合など、水が勢いよく噴き出すことがありますのでご注意ください。

図 -6

給水配管にフラッシング用バルブが設けられている場合

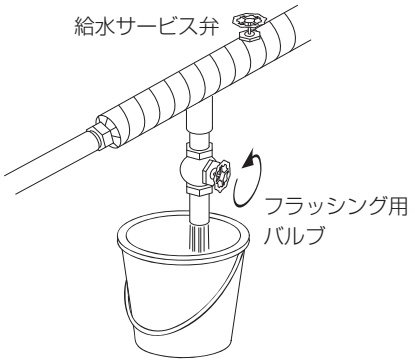
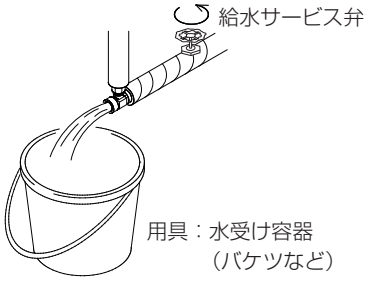


図 -7

給水ストレーナからフラッシングする場合



No. 2	作業時期：設置後の運転初期（運転開始後 1 ～ 2 日目）および シーズンイン時（汚れの状況により周期を早める）
	作業内容：給水ストレーナの掃除

1）給水サービス弁を閉め、給水ストレーナのキャップを外します。

2）筒状のアミを取り出し、きれいに掃除して水洗いします（図 -8）。

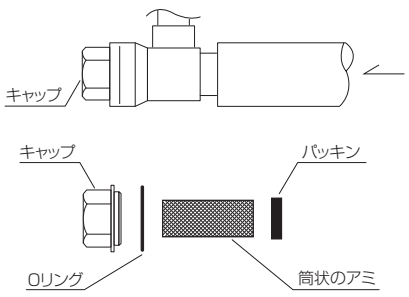
3）元通り給水ストレーナのアミ・パッキンを取り付けてキャップを締め込みます。

●キャップのOリングが切れていないことを確認してください。
切れている場合は新しいものと交換してください。

4）給水サービス弁を開けて通水し、水もれがないことを確認します。

5）断熱材の養生を行います。

図 -8



No. 3	作業時期：シーズンイン時（汚れの状況により周期を早める）
	作業内容：加湿モジュール洗浄・給水ヘッダのノズル掃除・ドレンパンの掃除

●加湿モジュールは運転時間の経過に伴って徐々に汚れが付着します。また、給水中のスケール成分が析出することがあります。

●洗浄作業の頻度は、給水の水質、流通空気の条件によって大きく変動します。衛生面への配慮から年１回（シーズンイン時）の実施をお願いしていますが､汚れ具合や吸水性低下（濡れムラ等）の状態に応じて適宜洗浄を実施してください。

●加湿モジュールの表面にスケールが析出している場合は、下記の洗浄作業とは別にスケール除去を目的とした洗浄が必要です。スケール除去には専用の洗浄剤が必要ですので、当社宛ご連絡ください。

●変形や劣化が著しい場合には、新しい加湿モジュールと交換が必要ですので、当社宛ご連絡ください。

1）加湿器が組み込まれている空調機の運転を停止してください。

⚠ 警 告	●必ず空調機の運転を停止してください。 作業中にファンが回転すると、事故の原因になります。

2）給水サービス弁を閉めます。

3）給水ホースの加湿器本体側のホースバンドをゆるめて給水ホースを外し、本体内蔵の給水ヘッダ内、および給水ホースに残っている水を抜きます（図 -9）。

⚠ 注 意	●給水ホースは、給水ホース口に固着して抜きづらいことがあります。少しずつゆっくりと抜いてください。 無理に力を入れると、事故の原因になります。

4）加湿器本体を空調機から取り外し、加湿器本体から給水ヘッダ、ドレンパンを外します。

●加湿モジュールを構成しているステンレスケースは分解しないでください。分解すると復旧できなくなります。

●洗浄作業中に空調機を運転する必要がある場合には、加湿器の給水サービス弁を閉めてください。

5）洗浄剤として、市販の「酸素系漂白剤」をご用意ください。

⚠ 警 告	●塩素系漂白剤は絶対に使用しないでください。 ●洗浄剤の取扱は、洗浄剤の容器に記載されている注意事項を必ず守ってください。

6）加湿モジュールはブロック化されています。洗浄用水槽として、個々の加湿モジュールが十分に入る大きさのものをご用意ください。

7）洗浄用水槽に洗浄液を作ります。洗浄剤の容器に記載の使用方法､注意事項に従って、シミ抜き程度の濃さの水溶液とし、加湿モジュールが十分に浸る量をご用意ください。

8）加湿モジュールを洗浄液に 30 分から１時間「漬け置き」します（図 -10）。

図 -9

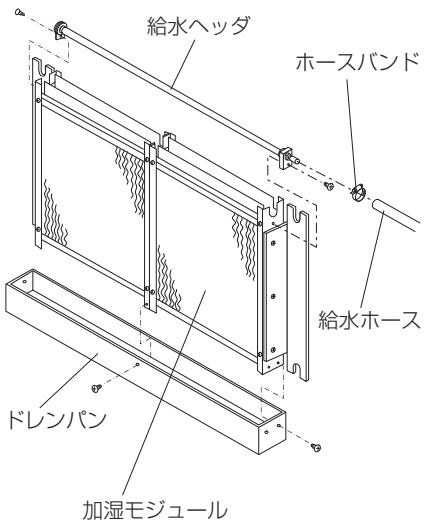
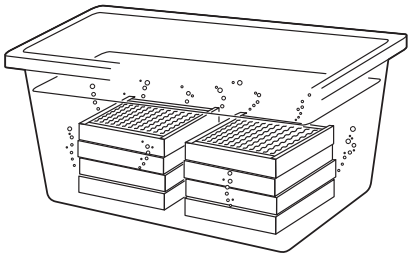


図 -10



9）漬け置きしたら加湿モジュールを取り出して十分に水洗いをしてください。その後、完全に乾燥させます。

●ブラシ等でのこすり洗いや水・空気などによる高圧洗浄は絶対にしないでください。加湿材が破損します。
●水洗いは十分に行ってください。不十分であると再使用時に空調機の通風により泡が発生し、キャリーオーバ（水滴飛散）の原因になることがあります。
●加湿モジュールは完全に乾燥させてください。乾燥が不十分の場合、設置環境によっては、運転開始後、臭気などが発生する原因になることがあります。

10）取り外した給水ヘッダのノズル（細管）の先端をブラシやウエス等で丹念に掃除し、スケール等の汚れを取り除きます。

11）取り外した加湿器ドレンパン内部をウエスなどで掃除し、排水口にゴミや異物があれば取り除いてください。

12）元通り加湿モジュール、給水ヘッダ、ドレンパンを組み立て、空調機に取り付けます。

●給水ホースの接続は、ホースバンド（締付トルク：1.5N・m）で固定してください。
●洗浄後すぐに加湿モジュールを取り付けない場合は、加湿モジュールを完全に乾燥させた状態で保管してください。

No. 4	作業時期：シーズンオフ時
	作業内容：給水ヘッダの水抜き

●加湿器本体の取付状態に応じて、加湿器本体を空調機から取り外して作業してください。

1）加湿器が組み込まれている空調機の運転を停止してください。

⚠ 警 告	●必ず空調機の運転を停止してください。作業中にファンが回転すると、事故の原因になります。

2）給水サービス弁を閉めます。

3）給水ホースの給水ユニットボックス側のホースバンドをゆるめて給水ホースを外し、給水ヘッダおよび給水ホースの残水を抜きます。

⚠ 注 意	●給水ホースは、給水ホース口に固着して抜きづらいことがあります。少しずつゆっくりと抜いてください。無理に力を入れると、事故の原因になります。

4）元通り給水ホースを接続してホースバンド（締付トルク：1.5N・m）で固定します。

5）加湿モジュールが濡れているときは、加湿器を停止したまま1時間程度の空調機アフターラン（送風運転）を行い、加湿モジュールを乾燥させます。

●加湿モジュールは完全に乾燥させてください。乾燥が不十分な場合、設置環境によっては運転開始後、臭気などが発生する原因になることがあります。

6. 故障の原因と処置

⚠ 警 告	●部品交換を含め、修理は当社または専門業者にご相談ください。修理に不備があると、水もれや感電、火災等の原因になります。 ●改造は絶対にしないでください。改造すると、水もれや感電、火災等の事故の原因になります。

6-1. 故障と思われる前に

●正常な動作を行わない場合でも、必ずしも故障が発生しているとは限りません。故障のチェックを行う前に、まず、下記の諸点をチェックしてください。

□ 加湿器への電源が供給されていること
□ ヒューミディスタット（湿度調節器）がある場合はこの設定が希望湿度にセットされていること
□ 空調機が運転していること
□ 給水サービス弁が開いていること
□ 断水していないこと

●なおも復旧しない場合には、下記「6- 2」を参照してチェックおよび処置を行ってください。

6-2. 故障の原因と処置

●次頁の一覧表を参照して、故障のチェックと処置を行ってください。

●表内で ■ 印の原因に該当する場合には、当社宛お問い合わせください（サービスコール）。

6-3. 故障時の作業が終わったら

●故障のチェックとその処置が終わったら必ず運転確認を行い、正常な動作および配管各部からの水もれのないことを確認してください。

●不都合な点があれば必ず修正し、なおも正常な動作を行わない場合は当社宛お問い合わせください。

6-4. 保証期間

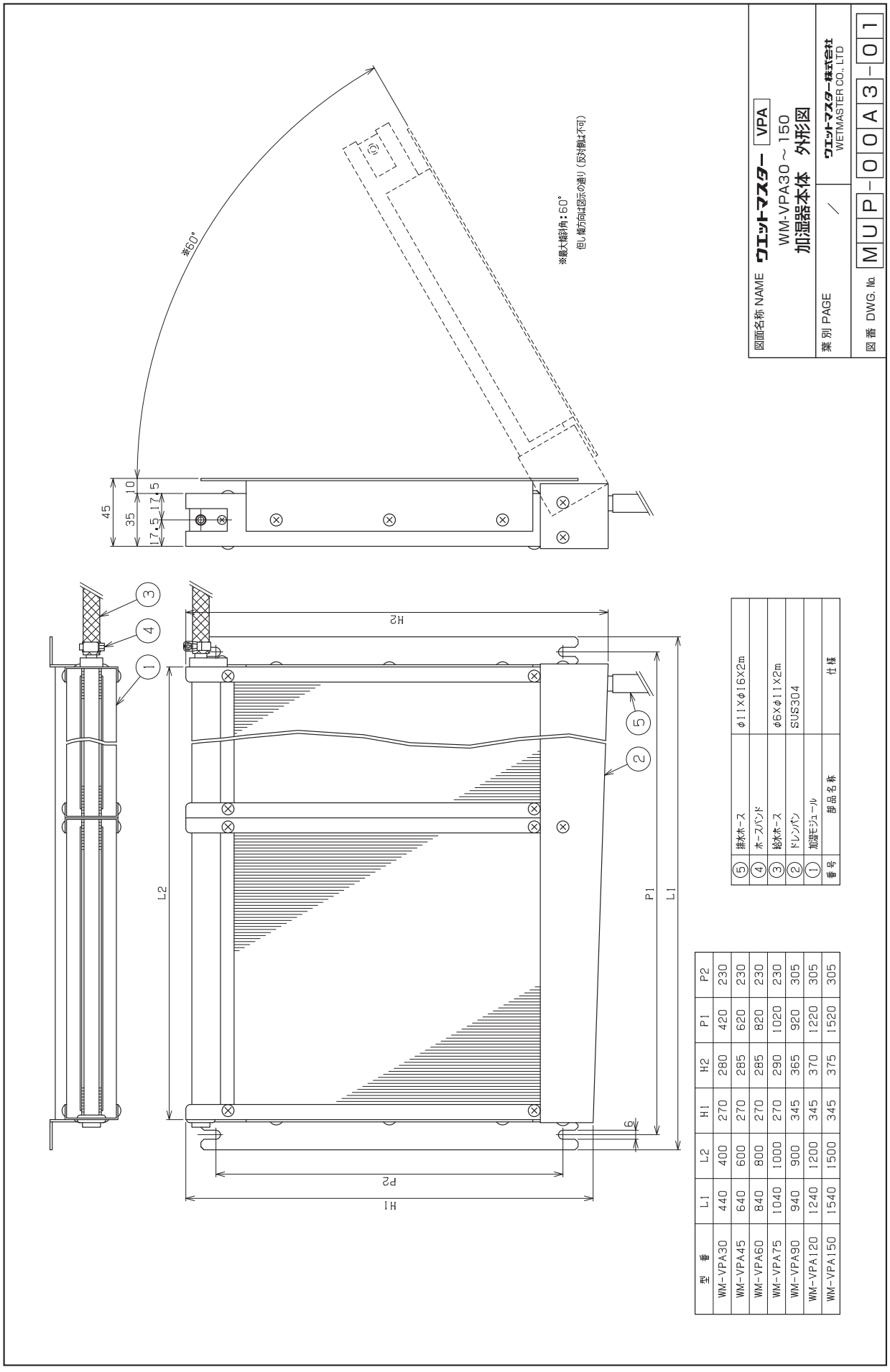
●当製品の保証期間は、銘板表示の製造年度の翌年末までです。取扱説明書および本体貼付ラベル等の要領に従った正常な使用状態で故障した場合には無料修理いたします。

●保証期間内においても、使用条件外でのご使用による故障、選定および取付の不良による故障、改造による故障、特殊用途でのご使用による故障などにつきましては、有料修理となります。
また、取扱説明書に交換周期の明示されている部品の交換、作業時期の明示されている保守点検作業につきましては、保証期間内においても有料となる場合があります。

【故障のチェックと処置／一覧表】表内で ■ 印の原因に該当する故障と判断される場合には弊社宛ご連絡ください。

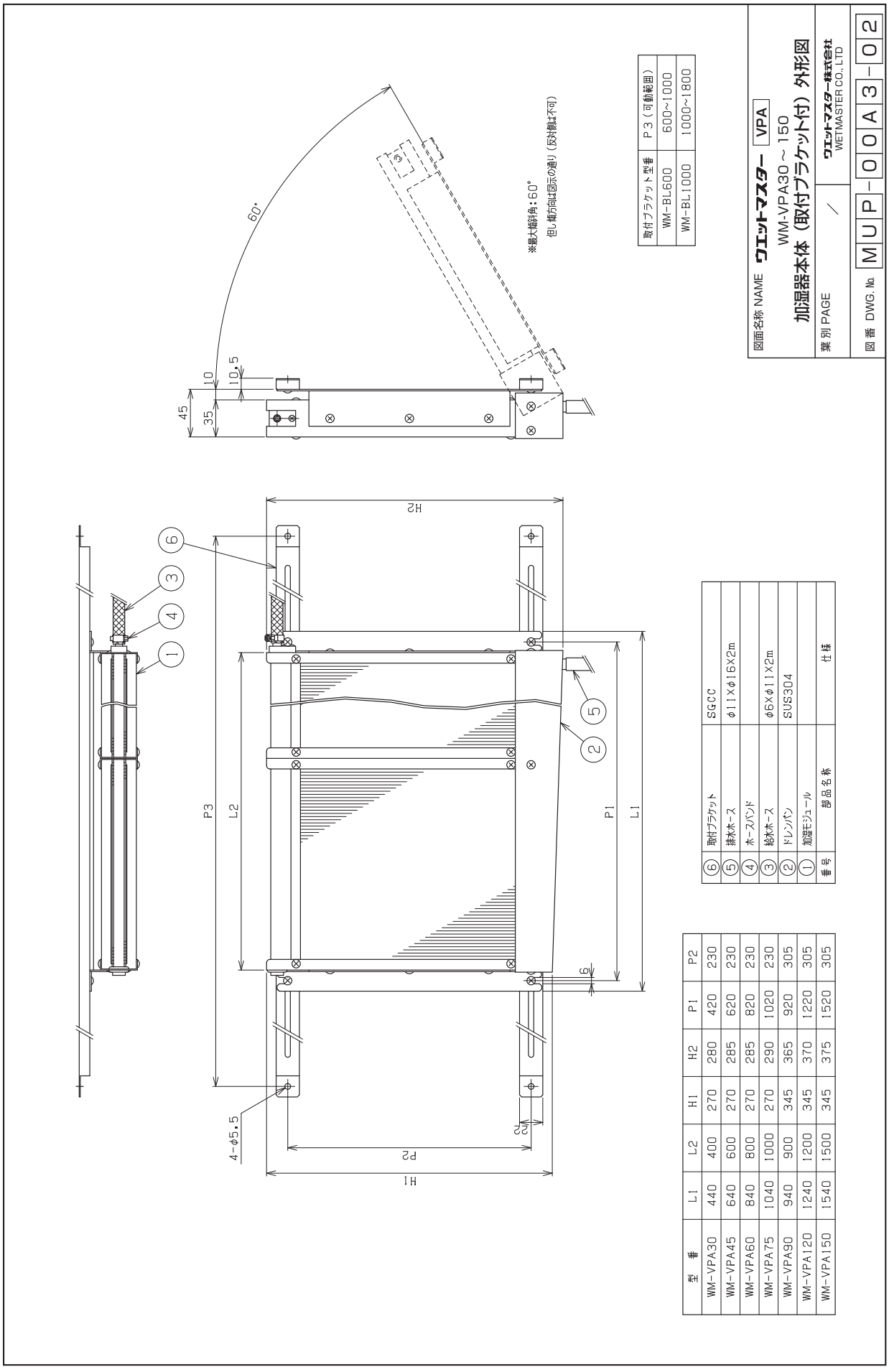
状　態	故　障　原　因			処　置
①運転しない	給水系統		給水サービス弁が閉まっている	給水サービス弁を開ける
			給水ストレーナ目詰まり	ストレーナを掃除する
			断水している	確認する
		■	電磁弁不起動	■ サービスコール
	電源系統		正しい電源が供給されていない	確認し修正する
			漏電ブレーカ（電源元スイッチ）が OFF	ON にする
			空調機が運転していない	―――
			ヒューミディスタット OFF	設定値を確認する
			ヒューミディスタット不良	ヒューミディスタット交換
			給水ユニットボックスのスイッチがＯＦＦ	ON にする
		■	給水ユニットボックスのヒューズが切れている	■ サービスコール
②加湿量不足	給水系統		給水ストレーナ目詰まり	ストレーナを掃除する
			給水ヘッダ目詰まり	給水ヘッダを掃除する
			給水圧力が低い	確認し修正する
		■	電磁弁、減圧弁不良	■ サービスコール
	加湿器本体		汚れやスケールにより加湿モジュールの吸水性が低下している	加湿モジュール洗浄または交換
③漏　水	給水系統	■	減圧弁不良による過剰給水で水滴飛散する	■ サービスコール
			各配管、軟銅管、給水ホース各接続部からの水もれ	修正または交換
	排水系統		ドレンパン排水管の詰まり	排水管を掃除する
			排水配管の施工不良	確認し修正する
	空調機系統		加湿器通過風速が高すぎて水滴飛散する	確認し修正する
	加湿器本体		汚れやスケールにより加湿モジュールの吸水性が低下し水滴飛散する	加湿モジュール洗浄または交換
			加湿モジュール洗浄後の水洗い不足による水滴飛散	加湿モジュール水洗い
④異　臭	給水系統		給水量不足で自己洗浄効果がなく加湿モジュールが汚れている	上記「②加湿量不足 / 給水系統」参照 加湿モジュール洗浄または交換
			水質が悪い	確認し修正する 加湿モジュール洗浄または交換
	排水系統		ドレンパン上に水が滞留している	上記「③漏水 / 排水系統」参照 ドレンパンを掃除する
			排水配管からの異臭	排水トラップ修正
	加湿器本体		経時的な加湿モジュールの汚れ	加湿モジュール洗浄または交換
	その他		流通空気の汚れに伴う加湿モジュールの汚れ	使用条件の見直し 加湿モジュール洗浄または交換
			運転を休止している空調機器内に含水状態の加湿モジュールが長時間放置されている（加湿シーズン中）	加湿モジュールを乾燥させる 加湿モジュール洗浄または交換
			冷却コイルからの凝縮水や加湿器本体の結露等の要因により、加湿モジュールが含水状態になっている（加湿シーズンオフ）	加湿モジュールを取り外す 加湿モジュール洗浄または交換

7. 外形図・電気回路図

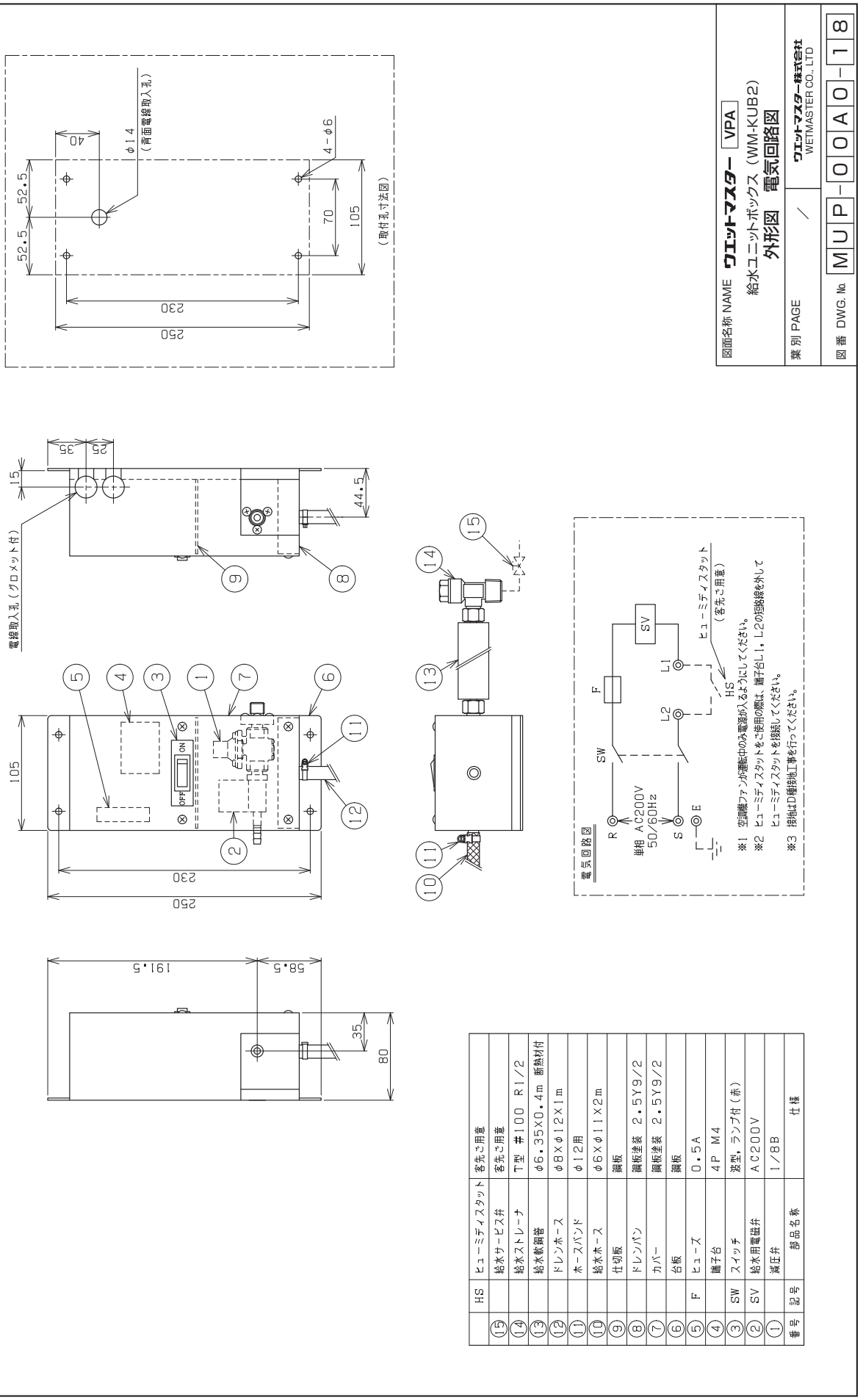


番号	部品名称	仕様
①	加湿モジュール	
②	ドレンパン	SUS304
③	給水ホース	φ6Xφ11X2m
④	ホースバンド	
⑤	排水ホース	φ11Xφ16X2m

型番	L1	L2	H1	H2	P1	P2
WM-VPA30	440	400	270	280	420	230
WM-VPA45	640	600	270	285	620	230
WM-VPA60	840	800	270	285	820	230
WM-VPA75	1040	1000	270	290	1020	230
WM-VPA90	940	900	345	365	920	305
WM-VPA120	1240	1200	345	370	1220	305
WM-VPA150	1540	1500	345	375	1520	305



型番	L1	L2	H1	H2	P1	P2
WM-VPA30	440	400	270	280	420	230
WM-VPA45	640	600	270	285	620	230
WM-VPA60	840	800	270	285	820	230
WM-VPA75	1040	1000	270	290	1020	230
WM-VPA90	940	900	345	365	920	305
WM-VPA120	1240	1200	345	370	1220	305
WM-VPA150	1540	1500	345	375	1520	305



番号	記号	部品名称	仕様
⑮		給水サービス弁	客先ご用意
⑭		給水ストレーナ	T型 #100 R1/2
⑬		給水軟銅管	φ6.35XO.4m 断熱材付
⑫		ドレンホース	φ8Xφ12X1m
⑪		ホースバンド	φ12用
⑩		給水ホース	φ6Xφ11X2m
⑨		仕切板	鋼板
⑧		ドレンパン	鋼板塗装 2.5Y9/2
⑦		カバー	鋼板塗装 2.5Y9/2
⑥		台板	鋼板
⑤	F	ヒューズ	0.5A
④		端子台	4P M4
③	SW	スイッチ	波型，ランプ付（赤）
②	SV	給水用電磁弁	AC200V
①		減圧弁	1/8B
	HS	ヒューミディスタット	客先ご用意

memo.

ウエットマスター株式会社

本社営業本部　〒161-8531　東京都新宿区中落合 3-15-15 WM本社ビル　TEL.03−3954−1101

●アフターサービスのお問い合わせは、保守管理グループ直通　TEL.03−3954−1110

大 阪 支 店　〒540-0024　大阪市中央区南新町 1-1-2 タイムスビル　TEL.06−4790−6606

名古屋支店　〒464-0075　名古屋市千種区内山3-1-4ハートヒルズ千種　TEL.052−745−3277

仙台営業所　〒981-3135　仙台市泉区八乙女中央 5-17-12　TEL.022−772−8121

福岡営業所　〒812-0004　福岡市博多区榎田 2-1-10　TEL.092−471−0371

●業務用・産業用各種加湿器

●流量管理システム機器／エアロQシステム・カラムアイ

ISO 14001 BUREAU VERITAS Certification　東京本社 ISO14001:2004 認証取得

PERRY JOHNSON REGISTRARS, INC.　東京本社 ISO9001:2008 認証取得

5710-001001